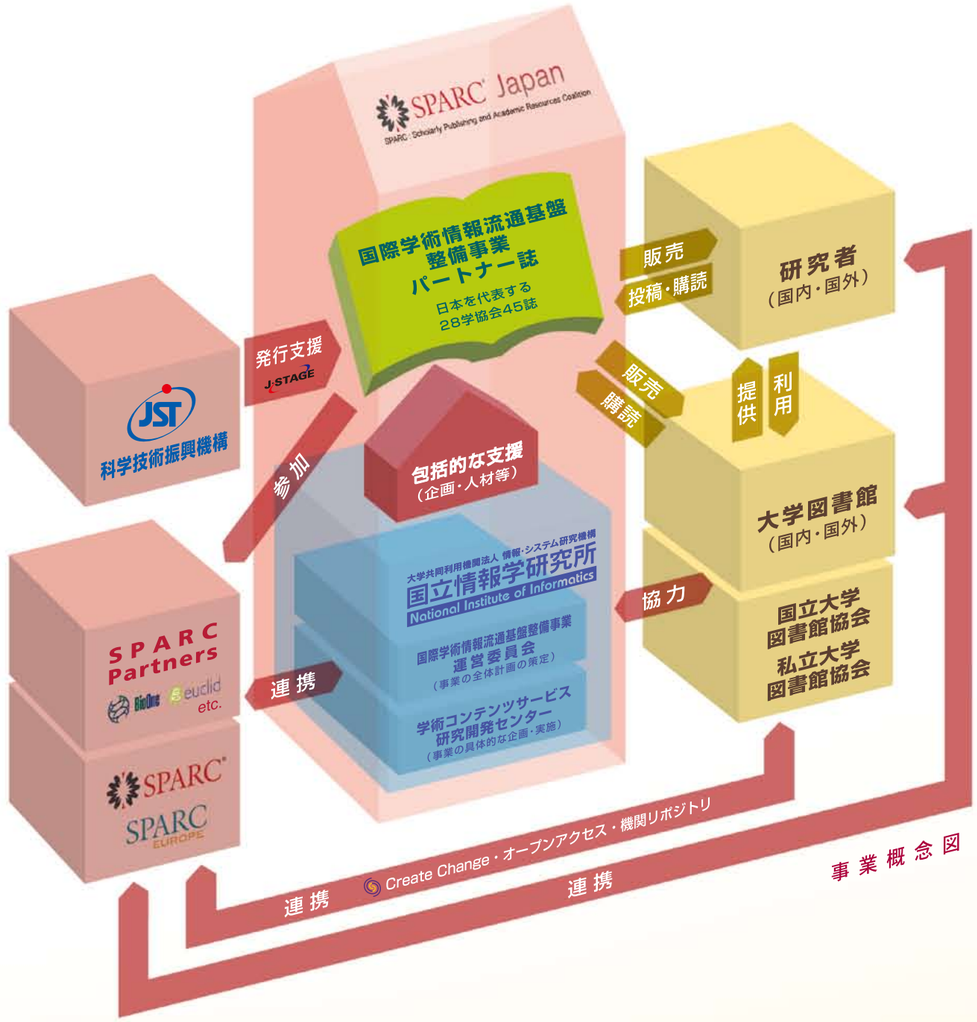
国際学術情報流通基盤整備事業とは

国際学術情報流通基盤整備事業は、日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進する事業です。

学術雑誌の電子ジャーナル化の進展により、研究成果の流通形態は急激な変化を遂げていますが、我が国の学術雑誌の電子化、国際化等への対応は十分とはいえない状況が続いてきました。

このような中、文部科学省からの支援によって、平成15年度から開始された本事業は、日本発の学術雑誌、特に英文論文誌を電子化するとともに、これらを安定的に発信できるビジネスモデルを創出し、日本の学術雑誌の海外への認知度を向上させることを目指して、パートナー誌とともに活動してまいりました。

平成18年度からは平成15-17年度の事業に続く第2期という位置づけのもと、第1期で果たせなかった課題の解決を図りながら、学協会を超えた横断的な支援活動を行い、自立した学会誌出版活動が醸成される環境の整備を目指します。



国際学術情報流通基盤整備事業の目標

第2期では、次のことを主な目標として事業活動を展開します。

ビジネスモデルの構築

大学図書館におけるサイトライセンス契約の推進をはじめ、従来の日本的な刊行から国際的な刊行へと移行を促し、パートナー誌の自立を図ります。

国際連携の推進

米国SPARCとのMOU締結を契機として、日本の学術雑誌の認知度を上げて、存在感を示すために、国際的にアピールしていくとともに、国際的な販路拡大のための支援を行います。

Advocacy活動の展開

学会誌担当者向け連続セミナーをはじめとした人材育成などにより、情報提供と情報共有の場を提供します。このほか、ビジネスモデルの構築支援に関連して、図書館と学協会とのサイトライセンス契約締結の実現には、電子ジャーナルを利用する研究者の意識を高めることも必要ですので、そのための広報・啓発活動も推進します。

達成目標

- ビジネスモデルの確立による学協会出版活動の自立、拡大
- 電子ジャーナル化の促進、国際連携の推進に基づく国際的な販路の拡大
- 学術研究成果の国際的な発信と我が国の知的存在感の確立

活動の成果

- 生物系パッケージUniBio Pressの誕生 BioOneとの連携
- 数学系ジャーナルのProject Euclidとの連携
- 情報・通信系の電子版英文論文誌の創刊
- 大学図書館との電子ジャーナル購読契約の拡大
- 大学・学協会向けAdvocacy活動の展開

事業活動

電子化・国際化支援
- メタデータ作成
- 編集・査読システムの構築・導入
- 電子化・国際化等の情報共有

SPARC Japan連続セミナーの開催
- 学協会事務局の人材養成
- パートナー誌間の交流

ビジネスモデルの構築支援
- 電子ジャーナルのパッケージ化
- 大学図書館等におけるサイトライセンス契約
- 海外機関との連携による販路の拡大

研究者・大学図書館への広報宣伝
- 図書館コンソーシアムとの連携
- 学術コミュニケーションの最新動向の調査・啓発活動
- 機関リポジトリとの連携

海外では

SPARC　SPARC EUROPE

北米、ヨーロッパなどにおいては、大学図書館団体が呼びかけて、研究者による学術雑誌刊行の電子化支援を通して、価格高騰の問題を解決する競争的市場を創出する取り組みが展開されてまいりました。その成果として、米国におけるSPARC（Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition）活動やヨーロッパにおけるSPARC Europe活動が展開されています。また、昨今は、研究成果への障壁なきアクセスを目指すオープンアクセス（Open Access）という運動が欧米を中心に展開され、研究者、学術出版社、大学図書館のみならず、行政機関、研究助成団体等も巻き込んだ活動が活性化しています。

関連団体サイト

SPARC（米国）	www.arl.org/sparc
SPARC Europe	www.sparceurope.org
Project Euclid	www.projecteuclid.org
BioOne	www.bioone.org
国立大学図書館協会	www.soc.nii.ac.jp/janul
私立大学図書館協会	www.jaspul.org
科学技術振興機構	www.jst.go.jp